

階段あみだくじによる階段利用の促進

名城大学大学院農学研究科
鈴木舞衣 原崎茜蓮

1. 概要

名城大学 天白キャンパス 共通講義棟北の地下 1 階は地上階と比較して利用者が少なく、施設の認知度が低いという問題がある。そこで、地下 1 階に行きたくなる階段を利用した仕掛け「階段あみだくじ」を考案・設置した。

その結果、本仕掛けが階段利用者数を増加させることが明らかになった。

2. 実験内容

日時 : 2024 年 10 月 2 日 (水)、10 月 9 日 (水)

場所 : 名城大学 天白キャンパス 共通講義棟北
1 階から地下 1 階につながる階段

測定項目 : 通行人数、あみだくじを利用した人数

3. 実験結果

単位 : 人

	階段利用者総数	地下施設の利用者
対照条件	139	112
介入条件	226	105

	あみだくじを利用	あみだくじを意識	通常利用
対照条件			139
介入条件	60	50	116



図 1 : あみだくじ開始地点

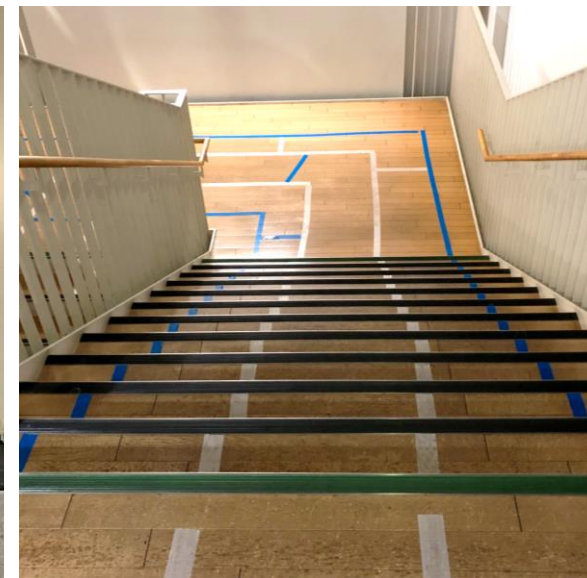


図 2 : 作成したあみだくじ

4. まとめと展望

実験結果より、通常時の階段利用者は 139 名、階段あみだくじ設置時 (図1, 2) は 226 人であり、階段利用者は 1.6 倍に増加した。したがって、提案手法は階段の利用を促進する効果があると判明した。

一方、地下施設の利用者は 7 名減少し、地下 1 階に移動しても施設利用にはつながらないことが明らかになった。

今後はあみだくじの設置方法と内容を検討し、施設利用の促進につなげていきたい。